

# その のだ 裕 史



さ

## 再挑戦

2007.4.22

2011.4.24

2014.10.5

2015.4.26

私は、何度でも  
大村市に  
挑み続けます。

し

シガラミ政治から脱却し、  
市民のもとに政治を取り戻そう

私は、昨年10月の市長選挙で10116票という支持を頂き、そして落選しました。

落選後の翌朝、私は政治活動の原点である大村駅前から、いつものように街頭演説を始めました。政治家としてのチカラ不足を痛感しながらも、決して止まらず市民の声を聴き歩み続ける日々でした。

子ども達から、『そのださん、またがんばってね。おおむらばよかまちにしてね。やくそくよ』。

同世代から、『感動したばい。大村もまだ捨てたもんじゃなか。一緒に大村ば盛り上げていこうで』。

大先輩の皆さんから、『あんたのごたん、若者が出てきてくれて嬉しかばい。大村の未来ば託したけん、もっと頑張らんばぞ』。

一つひとつの声は、これまで7年半の様々な政治活動の現場から頂いたものでした。

そう、私にとっての現場とは、大村市全域なのです。

初めて街頭演説に立った30歳の私が、繰り返し訴えた言葉。

『一部の地域や団体のためではなく、大村市全体を考えた公平な判断と、質の高い政策を提案します』。

落選を経た今だからこそ、私がやらなければならない政治が、私にしかできない政治が、私がやりたい政治がそこにはあります。

す

## スイッチ / SWITCH

『政策はよく考えて練り上げてあるばい。ばってん、そいば、もっと多くの人に伝えて知ってもらわんば、変えることはできんぞ』。

先の市長選挙では、そんな叱咤激励が沢山届きました。毎日の演説を繰り返し、自ら歩いてチラシを配り、様々な媒体で情報発信を続けることで、大村すべてに伝えたいものになっていたのです。

今一度、自らの政策そして活動に足りなかったものを鍛え直す覚悟を決め、ここに宣言します。

- \* より深く調査研究を重ねて、政策の精度を高めます。
- \* 市民が聴きたくなる、読みたくなる、動きたくなる政策をお届けします。
- \* 志と理念を共有する仲間をつくり、幅広い議論で組織を活性化します。

公平であたりまえで、次の次の次の世代にも説明責任が果たせる政治に。

大村9万4千人みんなが、大村のために何かしたいと思える政治に。

さあ、今ここから新しい大村に、スイッチ。

せ

## 選挙に行こう

昨年10月、大村市長選挙の投票率は62.62%、約4割の市民が投票には行きませんでした。

それでも、私は『選挙に行こう』と訴え続けます。

これまで選挙といえば、政策は後回しにされ、後出しジャンケンが続いてきました。

知り合いだから…お世話になってるから…そうではなく、政策で政治家を選ぶ。

これが、本来の選挙のはずです。

あなたは、子どもから『ねえ、なんで選挙に行かないの?』と問われたら、答えられますか?

私達が、世の中を傍観し悲観的な言葉を発すれば、そんな姿を見た子どもは、大人の態度を真似するかもしれません。

あなたから子どもへ。そしてまた次の世代へ。

大村の未来をつなぎ、伝えて欲しいのです。

街を創るのは、人と政策です。

その政策を提案するのは政治家ですが、選ぶのはあなたです。

未来の大村を選び、現在そして未来をみんなで創るために。そうだ、選挙に行こう。

そ

## そのだ裕史

昭和52年2月18日生まれ 38歳  
妻、長男(12歳)、次男(8歳)の4人家族

竹松小学校・鬼橋ソフトボールクラブに所属～郡中学校・野球部に所属～大村工業高校電子工学科・ラグビー部に所属し副キャプテンを務める～大村看護高等専修学校～福岡看護専門学校～大村市立病院(現 市立大村市民病院)～医療法人カメラ大村共立病院～平成19年から大村市議会議員(2期7年半)～平成26年大村市長選挙に立候補、10116票を獲得するも落選

看護師、大村工業高校同窓会理事(第31回生)、ローカルマニフェスト推進地方議員連盟運営委員、NPO法人自死遺族支援ネットワークRe理事、大村市自殺対策実務者会議委員、三城第一町内会役員、前 三城小学校PTA会長

早稲田大学マニフェスト研究所 主管「マニフェスト大賞」第3回・第6回大会で2度の受賞。各種機関誌や書籍への寄稿・編集協力多数。県内外での講演実績多数。

問い合わせ  
**そのだ裕史 事務所**  
〒856-0827 大村市水主町2丁目1025-4  
《tel / fax》0957-42-4591  
《mobile》090-7928-3979  
《e-mail》info@sonoda-hiroshi.jp



- そのだ裕史 . j p 討 議 資 料 -

